

# ⑥ じん じゃ てら 神社とお寺

## 人々の祈りの姿にふれよう

(村史388~415P ふるさと~104~109P)

昔から人々は神仏を祀り、信仰し、心のよりどころとしてきました。神社やお寺は貴族や豪族により建てられたものもありますが、多くは地域の人々が心の支えとして建立し守ってきたものです。ここに挙げる社寺のほかにも、草深い山野や路傍に、小庵や社、祠、また石像などでさまざまな神仏が祀られています。それらの神仏を訪ね、そのいわれなどを調べ、その時代の人々の生活や願いにふれてみましょう。

### 種月山 耕雲寺

しゅげつざん こううんじ

室町時代の天文10年(1541)に開創されたといわれる曹洞宗のお寺で、大門原上段地籍が創建時の位置と推定されています。現在地に移転したのは江戸時代初期と考えられ、飯田城主から破格の寺領が寄進され、その後東照権現宮が建立され、5代将軍綱吉から下馬札が下附されたといわれるなど、寺格の高い禅寺です。

宝暦12年(1762)と明和7年(1770)に大きな火災があり、現在の本堂は天明6年(1786)に再建されました。



山門:羅漢門(らかんもん)と十六羅漢(じゅうろくらかん) 飯田市有形文化財  
寛政7年(1795)に建築された山門で、浦島太郎に出てくる竜宮城を思わせるアーチ型の門が特徴です。2階には釈迦仏(しゃかぶつ)と十六羅漢像が収められています



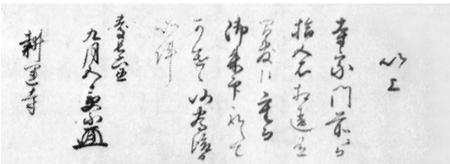
本堂



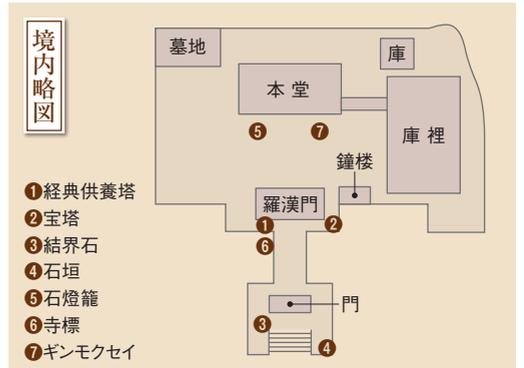
結界石(けっかいせき)  
「不許葷酒入山門」(寺は修行の場の  
ため、匂いの強い野菜や酒を飲んだ者  
は寺門内に入ることを許さない)という  
意味が印されています。1747年



惣門(そうもん)



伊那郡代官 朝日受永の寄進状



# 定額山 元善光寺(座光如来寺)

じょうがくざん もとぜんこうじ



本堂

天台宗の寺院で、「元善光寺縁起」によると寺院の開創は飛鳥時代と伝えられています。麻績の郷の住人・本田善光が、後に善光寺の本尊となる阿弥陀三尊を、飛鳥時代に難波(大阪市)から持ち帰った場所といわれ、古くは如来寺と呼ばれていました。

天明8年(1788)に火災があり、現在の建物はその後の再建です。宝物殿には「座光の臼」などの寺宝が収められ、境内には貞享年間の六字塔をはじめ多くの供養塔・念仏塔・石仏・歌碑・句碑・石燈籠などが安置され、信仰の篤さがうかがえます。



本尊・一光三尊阿弥陀如来像



木造釈迦涅槃像 室町時代(1336~1573)の作。市指定有形文化財

## 境内略図

- ① 名号塔(南無阿弥陀佛)
- ② 經典供養塔
- ③ 芭蕉句碑(うらやまし浮世の北の山桜)
- ④ 焦雨句碑(淋しさは人にこそよれ鳴く蛙)
- ⑤ 歌之介句碑(魚一寸草三寸のかすみかな)
- ⑥ 市川團十郎碑
- ⑦ 延命親子地藏尊
- ⑧ 針供養塔
- ⑨ 菊供養塔
- ⑩ 大杉
- ⑪ 善心光梅
- ⑫ 大王松

### 宝物殿

- ① 座光の臼
- ② 木造釈迦涅槃像
- ③ 関流算額



左:焦雨句碑(1845年) 右奥:芭蕉句碑(1813年)



菊供養塔

菊人形は大正14年(1925)、駅前広場での菊飾りが始まりです。途中2度の休演を経験しましたが、元善光寺菊華会の熱意により復活。創設86年、興行61年の歴史を刻みました。平成24年に3度目の休演となりました



南無阿弥陀佛石碑  
1684年



座光の臼

難波の池から迎えた御本尊をこの臼の上に安置し供養されたといわれています



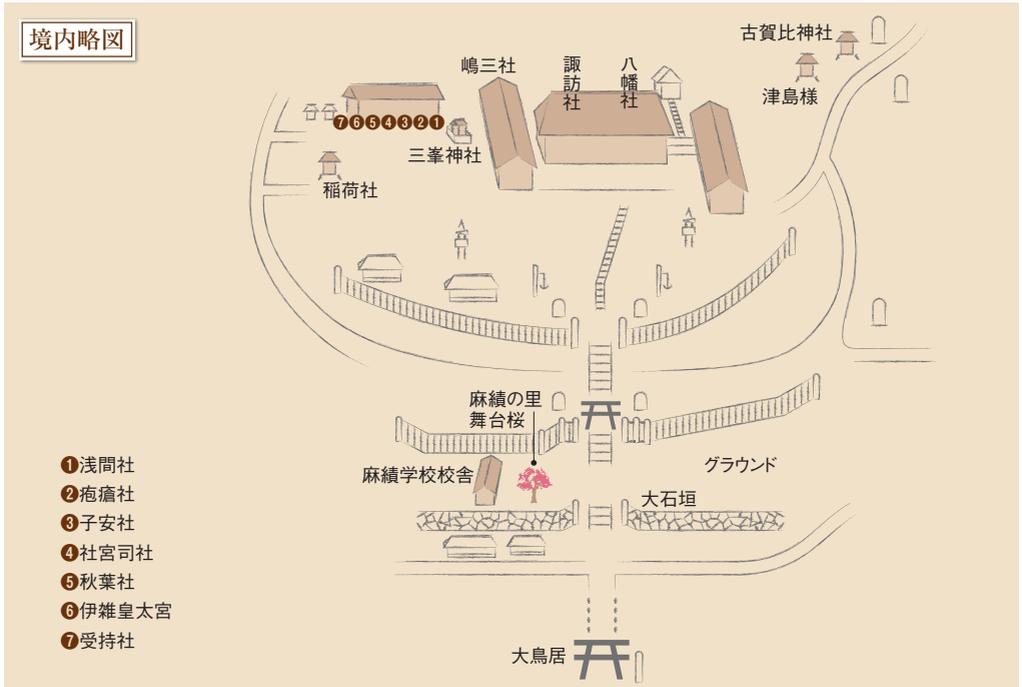
関流算額

# 麻績神社

おみじんじや

天正年間(1573)以前の開創といわれています。中心の神様は八幡社で、麻績神社と呼ばれるようになったのは明治8年(1875)以降のことです。古くは八幡社・大宮諏訪社と呼ばれ、境内には両神社のほかには嶋三社、浅間社、稲荷社と末社5社が合祀されていました。現在はマップのように14社が合祀されています。

かつては社叢(神社の森)に続く傾斜地の中を、116間(約210m)の参道が市場の道路から続いていましたが、明治6年(1873)、麻績校舎が参道脇に造られ、その後校地拡張のために大石垣ができ、その姿を大きく変えました。(村史388p~395p ふるさと~104p~105p)



麻績神社大鳥居(おみじんじやおおとりい)  
 明治21年(1888)建立の、「伊那一」といわれる石の大鳥居です。主に村人の寄付金と総出の労力に支えられ建立されました。掲(か)げてある「麻績神社」の額面は明治政府の内大臣三条実美(さんじょうさねとみ)の書です。(ふるさと~108p~109p)

### 八幡社(はちまんしゃ)

麻績神社の中心の神様で本殿に祀られています。祭神は誉田別尊(ほむたわけのみこと)(15代応神天皇)です。麻績神社四大祭(元旦祭・春祭り・秋祭り・勤労感謝祭)は八幡社を中心に神社全体で行われます。



### 諏訪社(すわしゃ)

本殿の左に祀られているのが、建御名方命(たてみなかたのみこと)を祭神とする諏訪神社です。御柱(おんばしら)も立てられています。江戸時代後期、大宮大明神社と呼ばれていたことから、古代伊那郡家とつながりをもった社という説もあります。



### 高岡神社(たかおかじんしゃ)

高岡神社も麻績祭神の一柱で、獅子舞はここから始まります。



### 嶋三社(しまさんしゃ)

天竜川の洪水で流れ着いた「お志満さま」を拾い上げ、上河原の元宮に祀りましたが、たびたびの災害のため宝暦10年(1761)「嶋三社」として現在地に移しました。



### 末社(まつしゃ)

これらは神社裏山(南本城)に祀られていた神々で、産土(うぶすな)社地へ遷座(せんざ)され、旧跡には標識石(ひょうしきせき)が置かれています。

- ① 浅間社(せんげんしゃ)
- ② 疍瘡社(ほうそうしゃ)
- ③ 子安社(こやすしゃ)
- ④ 社宮司社(しゃぐじしゃ)
- ⑤ 秋葉社(あきはしゃ)
- ⑥ 伊雑皇太宮(いざわこうたいぐう)
- ⑦ 受持社(うけもちしゃ)



麻績学校校舎(おみがっこうこうしゃ)

明治6年(1873)開校。昭和60年(1985)県宝指定。現在残っている学校校舎としては県内最古です。1階は人形芝居や歌舞伎を行うための舞台、2階は学校校舎として使うために造られた建物です。当時の正面玄関は「麻績の里交流センター」の裏口に移築されています。

(村史626p～631p ふるさと～112p～113p)

大石垣(おおいしがき)

校地拡張と環境整備のため、明治31年(1893)に公民館後ろの石垣120m、昭和12年(1942)に運動場東の石垣が造られました。

(村史693p ふるさと～110p～111p)



古賀比神社(こがいひんじや)

「蚕飼(こがい)」する人々の豊蚕(ほうさん)を願って祀られた神社です。昭和10年(1935)、南本城に建立されました。現在の神社は平成19年、現在地に遷座(せんざ)されたものです。



津島様(つしまさま)

本宮は愛知県津島市にあり、祭神は建速須佐之男命(たけはやすさのおのみこと)・大穴牟遲命(おおあなむじのみこと)で、疫病退散の信仰があります。

## 宗安院(弘法様)

そうあんいん

江戸時代の初めに耕雲寺の末寺として開山され、伊那巡礼二十四番札所に数えられていました。明治6年(1873)無住になり廃寺となりました。その後、尼僧が堂守をしていましたが、昭和17年(1942)に全焼し、廃絶されました。

大正5年(1916)ころ、座光寺出身の北原得道尼が駄科の念通寺に寄進された八十八体の弘法大師像のうち、一番と八十八番の2体とともに移り住んでから、「弘法様」とも呼ばれるようになりました。太師堂や休憩所が残されています。得道尼は座光寺饅頭の元祖でもあります。



## 水月庵(観音堂)

すいげつあん

古くから観音堂があり、伊那巡礼二十五番札所に数えられていました。宮沢氏の菩提寺でしたが、明治6年(1873)、無檀家・無住となり、廃寺となりました。

集会所となった庵には十一面観音菩薩像が安置され、地区民は今でも「灌仏会」を行っています。また、安置された多くの石碑・石仏からも、古くから庵寺として栄えていたことがわかります。



鱧口(わにぐち)



## 中羽場 阿弥陀堂

あみだどう

お堂は元禄年間(1688~1704)以前の建立と伝えられ、堂内には阿弥陀如来・弘法大師像・蚕玉様が祀られています。毎年5月、地区の婦人たちにより、花御堂に釈迦像を安置し、大王念珠を捧げ「灌仏会」を行っています。

(蚕玉様は現在、飯田市美術博物館に預けられています)

